RACE REPORT

Green Brave

＃52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4

SuperTaikyu JapaneseEnduranceRace

ENEOS

2023 年 5 月 26 日（土）～28 日（日）　スーパー耐久シリーズ 2023 第 2 戦

NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース　富士スピードウェイ（静岡県小山町）

■■■高いチーム力が引き寄せた大きな勝利！　開幕 2 連勝を達成■■■

第 2 戦のドライバーは山﨑、服部、吉田、川合のレギュラー4 選手と、TOYOTA GAZOO Racing 育成出身の野中誠太選手。チームは事前のテストで走り込みを行い、トラブルの芽を徹底的に摘んでから本番に臨みました。予選日（金曜日）の天候は晴。昼から行われた予選では、A ドライバーの山﨑選手が 2 位にコンマ 6 秒差をつけるトップタイム（1 分 47 秒 971）をマーク。B ドライバーの吉田選手は 7 位（1 分 47 秒 793）で、両者の合算タイム（3 分 35 秒 764）によりポールポジションを獲得しました。

決勝スタート日（土曜日）の天候は晴。チームは 1 人のドライバーが 2 枠連続で走りながら、タスキをつないでいく 24 時間のレースプランを作成。1 枠の走行時間は 80 分前後で、吉田、服部、山﨑、川合、野中の順にローテーションします。1 枠目の終了時には店舗メカニック（日勤 6 名／夜勤 7 名）が給油のみの短いピット作業を行う他、2 枠目にはタイヤ交換とドライバー交代も実施。また、レースの約半分（12 時間）をめどに、全チーム義務付けのメンテナンスタイム（10 分間）を実施する予定です。レース序盤、吉田選手は 3～5 位を走行。5 人のドライバーは、クルマに負担をかけずに走行することをチームと事前に決めており、吉田選手は 1 分 50 秒後半のペースで周回します。スタートから 3 時間経過した 96 周目、吉田選手が 2 回目のピットイン。作戦通りタイヤ交換も行い、服部選手に交代します。コースに復帰した服部選手の順位は 3 位。吉田選手と同様、クルマを労りながら走行する服部選手ですが、135 周目、上位のピットインにより、トップに浮上します。159 周から唯一のアマチュアドライバー、山﨑選手が走行。時刻は 20 時を過ぎており、山﨑選手はコース上に落ちている無数のタイヤカスに苦戦。ペースを上げることができません。山﨑選手と無線で相談したチームはレースプランを変更。1 枠のみで川合選手に交代し、山﨑選手を走りやすい日曜日の日中にコンバートします。川合選手は 202 周目から走行。依然としてトップにつけており、後続との差を広げていきます。日付の変わった 276 周目、他クラスのアクシデントにより、セーフティカー（SC）が導入。チームはこのタイミングでのメンテナンスタイムの実施を決断し、川合選手をピットに呼び戻します。夜勤班の店舗メカニックが確実な作業で、ブレーキ周辺の部品を交換。同時にタイヤ交換と給油も行います。規定時間より早く作業を終わらせることができたため、少し待機してから野中選手がコースイン。順位は 2 位です。野中選手は黄旗中の追い越しにより、ドライブスルーペナルティを科される場面もありましたが、午前 3 時の時点でトップを走行。364 周から再び吉田選手がステアリングを握ります。アクシデントにより、レースは 3 時半から 1 時間半ほど中断しましたが、吉田選手はレース再開後も集中力をきらさず走行。2 位以下は周回遅れとなっており、トップをキープして朝を迎えます。天候は引き続き良好で、7 時半をまわった 456 周から山﨑選手が 2 枠連続で快走。520 周から川合選手、さらに 567 周から野中選手がステアリングを握り、終盤を迎えます。アンカー、服部選手は残り 3 時間をきった 614 周目から走行を担当しますが、クルマの不調を訴えており、ピットは緊迫した状況に。最後の最後まで楽観視できない状況が続きましたが、大きなトラブルが発生することなく、2 位に 5 周の大差をつけてトップチェッカー。開幕戦に続く 2 連勝、さらに富士 24 時間も 2 年連続優勝を記録し、ピットは感動に包まれました。

決勝結果（ST-Z クラス）
＃52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4
（山﨑 学／吉田広樹／服部尚貴／川合孝汰／野中誠太）
決勝：1 位（685 周、24 時間 01 分 43 秒 198）
予選：1 位（合算タイム 3 分 35 秒 764）

©2023 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.

DRIVERS VOICE

決勝はクルマが壊れなければそこそこ狙えると思っていたのですが、トラブルが 1 回もなく勝つことができ、夢みたいです。夜間の走行時、路面のタイヤカスがひどく、そこのこなし方が今イチだったので、急遽作戦を変えてもらい、走りやすいところを走らせてもらいました。本当にたくさんの方の力を借りて、今日優勝できたと思っているので、みなさんにお礼を言いたいです。ありがとうございました。

（山﨑　学選手）

車種が変わっても開幕戦に続いて連勝でき、チーム力の高さを証明できたと思います。24 時間ノートラブルで走れるクルマ、それをしっかり整備できるメカニック。自分たちドライバーも大きなミスなく走れたので、いいレースができました。今シーズンも引き続き応援よろしくお願いします。今回は喜べますが、一歩一歩進めていかなければならないので、次に切り替えて頑張りたいです。

（吉田広樹選手）

ライバルがトラブルや接触で順位を下げていく中、うちらは淡々と、最後は思いっきりクルマをいたわって走りました。初めてのクルマでの 24 時間レースとなり、事前のテストではいろいろなトラブルが出ていたのですが、本番ではしっかり対策してくれ、ゆるんだり、折れたりというのが一切ありませんでした。大変でしたが、ドライバーだけじゃなくメカも含めて完璧な仕事をしたと思います。

（服部尚貴選手）

勝つことができて良かったです。もしかするとテストや練習の時にトラブルを出し切ったのかなという気がしています。今回からタイヤメーカーが変わったので、そこのデータもなく、やってみないとわからないという状況でした。イレギュラーなことがいろいろありましたが、チームのみなさんとドライバーが力を合わせ、クルマをいたわって走ることができたので、すべてが噛み合った結果だと思います。

（川合孝汰選手）

深夜の走行だったので、集中力を切らさないよう、気をつけながら走りました。チームはとてもいい雰囲気で、ぼくを温かく迎えてくださり、最初から問題なく走れました。メカニックのみなさんも素晴らしい方たちです。トラブルなく最後まで走り切ることができ、素晴らしい結果となりました。ぼくは今回の 24 時間のみですが、他のレースでも応援していただけるとうれしいです。宜しくお願いします。

（野中誠太選手）

ST-Z クラス決勝結果

1 位：埼玉トヨペット GB GR Supra GT4（トヨタ GR Supra）	685 周
2 位：ベンチャー投資のファンディーノ Audi R8 LMS（アウディ R8）	680 周
3 位：シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO（トヨタ GR Supra）	678 周
4 位：SUN'S TECHNO Audi R8 LMS GT4（アウディ R8）	672 周
5 位：Team Noah GR Supra GT4（トヨタ GR Supra）	671 周
6 位：BRP★SUNRISE-Blvd718GT4 RS（ポルシェ ケイマン）	667 周

トップ 6 まで（出走 10 台）

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	79
2 位	885	SHADE RACING	45
3 位	21	Audi Team Hitotsuyama	36
4 位	34	TECHNO FIRST	29
5 位	19	Birth Racing Project【BRP】	28
6 位	26	TEAM ZEROONE	27.5

トップ 6 まで（全 11 チーム）

【NEXT RACE】第３戦　７月８日（土）～９日（日）スポーツランド SUGO（宮城県村田町）

Green Brave PARTNERS

赤城車体工業株式会社

EMG ルブリカンツ合同会社

株式会社エヌ･ティ･コーポレーション

株式会社 FM　NACK5

株式会社岡崎巧芸

株式会社カーグラス･JP

埼群スリーボンド株式会社

株式会社三和広告社

JU 埼玉オートオークション株式会社

株式会社西武ライオンズ

ティーズ･ワークス

株式会社デンソーソリューション

株式会社ドーム

トヨタホーム東京株式会社

トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社

ファクトリーギア株式会社

富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

丸和工業株式会社

Mechanix Wear LLC

※50 音順

©2023 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.